

主に帰ろう

ホセア書6章

さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。(1)

前の章でイスラエルの悔い改めはもはや不可能であることが語られましたが、この章に入ると、悔い改めへの招きが語られます。突然、回復の恵みが告げられたのです。

預言者ホセアは罪に陥った民に呼びかけます。「さあ、わたしたちは主に帰ろう」と。徹底的に神に背いた民がなおも主のもとに帰ることができるのは、「主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるから」です。手術をする医者ナイフをもつて傷つけますが、決してそのままにはしておかず、最後にはその傷口を包みます。ナイフを振るうのはあくまで病人を癒すためだからです。わたしたちが悔い改めに躊躇するのは、主がいかに憐れみ深いお方であるかを十分に知っていないからでしょう。ホセアは民に勧めます。「わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることが求めよう」(3)と。たとえわたしたちの罪がどんなに深くとも、わたしたちの主はそれらの罪を覆ってくださる憐れみ深い方であることを知るとき、勇氣と信頼をもって主のもとに帰っていくことができますのです。主に帰ることは、主を正しく知ることから生まれます。

それゆえわたしたちは、もつと深く主を知ろうではありませんか。ホセアの勧めに従い、主がいかなるお方であるかを知ることが切に求めようではありませんか。